

「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。一体、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって告げた人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となったのです。あなたがたは、天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」（使徒7：51～53）

使徒言行録は6～7章で、ステファノに関することを書いている。彼はパウロに似て、福音における自由を体得しているが、その福音をどのように受け、どのようにエルサレム教会に加わったかについては、全く記していない。彼は、食事の公平な分配をする務めをするために選ばれた人である。恵みと力に満ち、不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。ところが、頑迷なユダヤ教徒である「解放奴隷とキレネ人とアレクサンドリア人の会堂」の人々とギリキア州とアジア州の人々が立ち上がり、ステファノと議論をした。ステファノは知恵と霊とによって語るのので、彼らは歯が立たなかった。そこで、彼らは人々を唆して、ステファノからモーセ（律法）と神（エルサレム神殿）を冒瀆する言葉を聞いたと言わせた。また、民衆、長老、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って、最高法院に引いて行った。そして、偽証者を立て、ステファノは聖なる場所（神殿）と律法をけなし、一向に止めようとしないと訴えた。更に、ナザレのイエスは神殿を破壊する、モーセが我々に伝えた慣習（割礼）を変えろと言っているのを聞きましたと言わせた。彼らは、イスラエル民族が最も大事にしているモーセの律法、民族の魂の故郷であるエルサレム神殿、更に、神の民の徴である割礼、これらを否定していると訴えたのである。最高法院の議員たちは皆、大罪人として訴えられたステファノに注目したが、彼の顔はさながら天使のような顔に見えた。イスラエルの宗教をひっくり返すような訴えを起こされたので、一筋縄では収まらない状況であったが、彼は平安そのものであった。

大祭司は「訴えのとおりか」と尋問した。これを受けて、ステファノは長い説教を始めた。彼は父アブラハムから始まり、神に導かれたイスラエルの歴史をとうとうと語る。イスラエルの歴史を知ることはユダヤ人であることの証しであり、頑迷なユダヤ教徒から、ステファノはイスラエルの宗教を否定する者であると訴えられたので、自分が生粋のユダヤ教徒であることを証明するために語ったのである。

①アブラハム物語。アブラハムは、神から「あなたの土地と親族を離れ、私が示す土地に行きなさい」と召命を受け、カルデアを出て、ハランに住み、彼の父の死後、今あなたがたが住んでいる土地（ユダヤ）に移された。そこでは、歩幅ほどの土地すら与えられなかったが、神はアブラハムとその子孫にこの地を所有地として与えると約束された。また神は、彼の子孫は、異国の地で居留者となり、四百年の間、奴隷として虐げられるが、奴隷にした国民（エジプト人）は神から裁かれ、エジプトから脱出し、この場所（ユダヤ）で神に仕える民となる。神はアブラハムに割礼による契約を与えた。彼はイサクをもうけ、割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長をもうけ、皆、割礼を施した。訴えられたように割礼を否定する者ではないと弁明している。

②エジプトにおけるヨセフ。ヨセフの兄弟たちはヨセフを妬んで、エジプトに売り飛ばしたが、神はヨセフと共におられ、苦難から救い出した。彼は、エジプト王ファラオに恵

みと知恵を授け、その知恵を買われ、ファラオからエジプトを司る宰相に任命され、エジプトとカナンを襲った飢饉を救った。カナンに住むヨセフの父ヤコブは、エジプトに食料があると聞いて、息子たちに穀物を買うに行かせた。二度目の時、ヨセフは兄弟たちに自分はあなたがたが売り飛ばした弟であることを明かし、ヨセフを売ったことは家族を救うための神の計らいであったと告げ、和解する。ヤコブ一族はエジプトに下り、そこで暮らす。彼ら、族長たちは死んで、アブラハムが銀で買った墓に葬られた。ヤコブの子孫はエジプトで増えたが、ヨセフを知らないエジプト王から虐げられ、奴隷生活に貶められた。

③モーセの誕生と彼の活躍。エジプトで奴隷として苦しめられていた時、モーセが生まれた。幼子はナイル川に捨てられたが、ファラオの王女に拾い上げられ、エジプトで教育を受け、言葉にも行いにも、力ある者に成長した。40歳の時、同胞の一人が痛めつけられているのを見て、相手のエジプト人を打ち殺した。同胞からは理解してもらえなかったが、誰がお前を裁き人にしたのか、エジプト人を殺したように、私も殺すのかと言われたので、エジプトを去り、ミデアンに逃れた。そこで、結婚し二人の子どもを得た。彼はシナイ山で、芝の燃える炎の中で天使と出会い、エジプトにいる神の民の苦難を見届け、呻きを聞いたので、彼らを救うためにエジプトに遣わすという主の声を聞いた。彼は不思議な業を行って、民を出エジプトさせた。モーセは天使と民の間に立って、シナイ山で授かった生ける神の言葉（律法）を、荒れ野の集会で伝えた。

④荒れ野の先祖たちの不従順と幕屋の建設。出エジプトしたが、民はモーセに従おうとはせず、子牛の像を作り、偶像にいけにえを献げて楽しみ、神から顔を背け、荒れ野を40年の間、彷徨った。民は荒れ野で神がモーセに命じた通りの証しの幕屋を作った。幕屋は受け継がれ、ダビデの時代に及び、ダビデは神殿を建てたいと望んだが、許されず、彼の子ソロモンが建てた。しかしステファノは、「いと高き方は人の手で造ったものにはお住みになりません」と語った。その根拠を、預言者イザヤの言葉を引用し、あなたがたは神のために家を建てると言うが、これらすべては神の手が造ったものではないか、創造主は人間が造った神殿などにはおられないと述べた。ユダヤ人はエルサレム神殿を神聖なものとして信じていたので、この言葉は神殿否定と受け取った。

ステファノは、「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。一体、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって告げた人々を殺しました」と語った。ナザレのイエスが神殿と律法を破壊し、慣習（割礼）を変えろと言ったというが、あなたがたこそ心と耳に割礼がなく、聖霊に逆らう。あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたか。正しい方が来られると告げた人々も殺した。更に、「そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となったのです。あなたがたは、天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした」と続けた。あなたがたは、正しい方、ナザレのイエスを裏切り、殺す者となった。あなたがたは天使たちを通して律法を受けた者なのに、律法を守らなかった。神は人間の手で造った神殿にお住みにならず、全てを創造した神を正しく崇めていない。また、割礼や律法を正しく守っていないのはあなたがたではないかと、ユダヤ人を告発した。そして、あなたがたが主イエスを殺したと断言した。これを聞いた最高法院は、自分たちへの侮辱と受け止め、ステファノに対し、押さえられない怒りを覚えた。もはや、ただでは済まされない状況になった。